

仕事や家庭で
頑張っている親へ
今だから言える

ありがとう。

well

子から親への

エール論文

コンクール2023

2023

11/19 SUN 締切 当日消印有効

募集期間 2023年6月18日(日)～11月19日(日)

賞の種類と副賞

- 岡山県知事賞
- 岡山経済同友会代表幹事賞
- 岡山大学長賞

副賞 10,000円相当

普段はなかなか
伝えることができない
親への感謝の気持ちを
伝える論文を募集します。

「仕事や家庭で頑張っている親へ今だから言えるありがとう」をテーマとし、仕事や家庭で頑張っている親に対して、泣いたり、笑ったりしたエピソードや親へのエールとなるメッセージを添えて、働き方の多様性を主に家庭の視点から考える論文を募集します。

対象 (応募資格)

県内外の高校生・大学生
(専修学校・各種学校生を含む)

募集作品の規格等

書式自由、文字数1,600字程度

冒頭に題名(作品タイトル)と氏名を明記してください。

お問い合わせ

ダイバーシティ推進実行委員会おかやま事務局

(株式会社ログゲデザイン内) 祝日を除く月曜日～金曜日 10:00-17:00

TEL:086-235-6010 diversity@logoo.design <https://logoo.design/diversity>

主催者:ダイバーシティ推進実行委員会おかやま(岡山県、一般社団法人岡山経済同友会、国立大学法人岡山大学) 後援:岡山県教育委員会、岡山県私学協会

<応募方法>

郵送の場合は応募用紙とあわせて下記応募先の宛先へ、電子メールの場合は応募用紙の項目を記載し、下記応募先の電子メールアドレスへお送りください。学校で取りまとめて応募することも可能です。なお、作品中に他人が著作権をもつ著作物等が含まれる場合には、許諾を得た著作物等とその著作権者等の連絡先のリストも添付してください。

<応募先>

郵送

700-0022 岡山県岡山市北区岩田町2-12F-ADIビル3階北 株式会社ロゴデザイン内「親へのエール論文審査実施事務局」宛
(応募の際は「子から親へのエール論文在中」と朱書きのこと)

電子メール

diversity@logoo.design

<審査方法、各賞授与>

岡山県内の大学関係者で組織する審査委員会で、厳正に審査を行います。高校生の部・大学生の部それぞれで入選作品を選出し、その中から「岡山県知事賞」「岡山経済同友会代表幹事賞」「岡山大学長賞」を授与します。

また、積極的に取り組んでいただいた学校には「ダイバーシティ教育推進学校賞」を授与します。

<入選発表>

2023年12月下旬に本人へ入選・入賞の連絡をいたします。

なお、入選されなかった方への連絡はいたしません。

2024年1月31日に岡山県庁で表彰式を行います。

受賞された方はご出席をお願いします。

<作品発表>

作品集として冊子を作成し高校や大学、関係者などに配布するとともに、当実行委員会のホームページに掲載いたします。

<応募に際しての注意事項>

ホームページに詳細な募集要項を掲載しておりますので、必ず内容をご確認ください。

URL <https://logoo.design/diversity>

郵送の際は、下記応募欄に必要な事項をご記入いただき、論文と同封の上ご応募ください。



応募用紙

1. 個人応募記入欄 (個人でご応募いただく場合はこちらをご記入ください)

氏名	ふりがな -----		
住所	〒 -----		
電話番号	メールアドレス		
学校名	学年	年	

2. 学校取りまとめ応募記入欄 (学校で取りまとめてご応募いただく場合はこちらをご記入ください)

学校名	担当教員名	ふりがな -----	
学校住所	〒 -----		
担当教員電話番号	担当教員メールアドレス		
1 応募生徒名	ふりがな -----	学年	年
2 応募生徒名	ふりがな -----	学年	年
3 応募生徒名	ふりがな -----	学年	年
4 応募生徒名	ふりがな -----	学年	年
5 応募生徒名	ふりがな -----	学年	年

過去の受賞作品紹介

2020年度
高校生部門

岡山県知事賞
受賞

「声に想いをのせて」

おかやま山陽高等学校2年 棗田 珠音

平仮名を覚えてたの私が書いた手紙を一生懸命読んでくれ、嬉しそうに「ありがとう」と言って抱きしめてくれた母。しかし、今考えると、母にとって娘からの初めての手紙を読むことはどんなに大変なことだったか、私には想像することができません。

私の母は文字が読めません。文字が習得できない障害、いわゆる読字障害者なのです。我家は母子家庭で、母と子ども2人の3人で生活し、学校に出す書類など、全て子どもを通してのやり取りです。

15年前、あるテレビ番組で「読字障害」を知った母の友人の勧めで、母は病院に行き、そこで初めて正式に読字障害だと診断されました。それまでの母は、幼い頃から授業で板書されたことがノートに写し切れず、やる気がないと思われたり、やっと解いたテストの答案用紙には先生から赤いペンで「勝手に漢字を作らない」「あなたのイメージで文章を読まない」とコメントが書かれ、自分は頭が悪いと思い込んでいたのです。

私の小学校時代は、「お母さんには連絡するけど、プリントも渡してね」と先生に言われ、どうして私の母だけに電話をするのか不思議でした。その上、先生から特別扱いされているとクラスの友達から言われることも嫌でたまりませんでした。そんな私の思いとは違い、母はいつも明るく前向きです。学校行事や保護者会には他の誰よりも積極的に参加し、「体力には自信があるから、何でもしますよ」と言っただけで、みんなが嫌がるような力仕事でも笑顔で引き受け、周りにはいる男性陣をびっくりさせます。家族で出かけた時も分からないことがあれば、周りの人に声をかけ、不安なことや疑問に思うことがあれば、母の言葉と行動力で解決するのです。誰とでもすぐに仲良くなれる母のコミュニケーション能力にはいつも驚かされます。そして、どうしてそんなに明るく前向きになれるのか聞くと、

「障害があるからと言って、悩んで立ち止まるより、笑顔を忘れないことが大事。困ったら助けてほしいと言えば、誰かが助けてくれるから、皆を信じて前に進まなきゃ!!」と、母は言うのです。そして、何事も諦めるのではなく、助

けを借りてでも乗り越えようとする力が必要だと話してくれました。

体を動かすことの得意な母は、今仕事でトラックを運転し、家の解体作業に携わったり、事務仕事ではパソコンを使って資料や報告書を作っていますが、間違いがあるかどうか見直すことはできません。しかし、障害を理解してくれる仲間に囲まれ、助けられながら母は笑顔で仕事が続けられているのです。障害があっても、それを理解してもらえるように笑顔で生活することと、周りの人の障害への理解と協力が必要なのだと、母を見ながら思うようになりました。日本では、読み書き計算ができなければ「立派な人間ではなく、仕事もできない」という固定概念がまだ残っています。しかし、読み書きができなくても、持っている才能を活かし、得意な分野で幸せに生きようと努力している人もいます。障害を理解してくれる人が一人でも増えれば、障害を持った人の魅力や可能性を無限に広げることができると私は思うのです。

将来私は、障害について学べる医療系の大学に進学し、文字や数字が読めない人の力になりたいと考えています。そして、母のように、読字障害があっても適切なサポートがあれば、持ち味を生かしながら活躍できることを知ってもらい、誰もが輝ける社会を目指したいのです。障害を理解し、互いを認め、尊重し支え合える社会の実現を信じて、私はこれからも前に進んでいきたいのです。

口下手な私は、この想いを母に伝えたことはありません。だからこそ、母に宛てたこのエール論文で文字に想いを込めるだけではなく、私の声に想いをのせて母に届けようと思います。そして、普段は恥ずかしくて伝えられない想いをこれからは言葉と声を通して伝え続けます。

その他の受賞作品については
ホームページに掲載しております。
スマホからのアクセスはQRコードをご利用ください。
<https://logoo.design/diversity>



2020年度
大学生部門

岡山大学長賞
受賞

「母を助けた私の料理」

山陽学園大学2年 三宅 萌未

私が母に教わった初めての家事は「料理」だった。私の母は料理が上手で、母のように料理を作ることができるようになりたいと小さな頃から思っていた。母にその思いを伝えると、「そんなに上手くないよ」と謙遜した。そして、小学校中学年の頃から私は母と夕飯を作るようになった。はじめは包丁を握って簡単な下ごしらえしかできなかった。しかし、さすがは料理上手な母で、教え方もとてもうまかった。私の料理の腕は見る見るうちに上達し、小学校を卒業するころには、自分で料理一品を任せてもらえるほどになった。私の料理の様子を見て母は「もう教えることなくなったね」と言った。その顔はとても安心して見えるように見えた。

中学校に上がり、私は母と夕飯を作るのを分担することになった。週に四回私が夕飯を担当し、週に三回母が担当するという、母より私の方が多く分担するというやり方になった。母は私が夕飯を手伝ってくれることにとても感謝をしてくれた。朝、昼、晩と料理を作るのは大変なんだとそんな単純な思いしか、この時はなかった。夕飯の分担は私が高校を卒業するまで続いた。

大学生になって、私はアルバイトを始めた。そのため、夕飯を全く作ることができなくなってしまった。アルバイトをすることに母は反対をしなかった。自分のためにお金を稼ぐことは悪いことではないし、社会勉強のためにもやって損はないと快くアルバイトに賛成してくれた。この時の私には罪悪感があった。いつも手伝っていた夕飯を全く作ることができなくなることで母を困らせてしまう、母に大変な思いをさせてしまうのではないかと心配になった。しかし、アルバイトも自分のためにしたかったことは事実であり、母の賛成もあって私はアルバイトをすることにした。

アルバイトを始めて、私は夜遅くに帰ることが多くなった。夜十時過ぎに家に着くような電車に乗り、駅から家までは車で送り迎え。その送り迎えも母がしてくれていた。家に帰ると母が作った夕飯が準備されていた。その料理を見て、「なんだ、私がいなくても料理は大丈夫なんだ」と私は思った。その次の日もまた次の日も、母は私に夕飯を準備してくれていた。母は一言も私に夕飯を作ってほしいと言わ

なかった。だからか、私はアルバイトを優先するような生活をしていた。

アルバイトをし始めて一か月くらいが経ったとき、いつものようにしてくれる送り迎えの車の中で母は言った。「もう料理は作らないの?」と。その一言に私は少し怒ってしまった。今まで何も言わなかったのに、なんで今になって言うのかと思った。母は静かに答えた。「娘のやりたいことはなんでもやらせてあげたいから、今まで何にも言わなかった。でも、やっぱりあなたの夕飯がお母さんは食べたい。あの時はほんとにお母さんは助かってたんだよ」と。それを聞いて、私は少し泣いてしまった。何も言わなかったのは私のためで、私のために我慢してくれていたことを知った。本当は毎日夕飯を作ることにストレスを感じていたのかもしれない。それを気付いていなかったのは私で、何も知らなかったのは私の方だと、心が痛んだ。そして母は私の夕飯をいつも楽しみにしてくれていて、私の夕飯が母を助けていた。私はごめんと謝った。母は謝る必要はないと言った。だけど、私は謝ることしかできなかった。そのやり方では、母に思いを伝えられないと思ったからだ。母は少し黙って、口を開いた。「じゃあ、週に一回でいいからあなたが夕飯を作ってね」と言った。私は頷いた。

それから、私は週に一回、夕飯の日を設けている。アルバイトも大事だと母は言うてくれたので、どちらも両立できるようにアルバイトの数を少し減らした。母は嬉しそうに私の夕飯を食べる。私の料理は母を助けられる。その事実が私は嬉しかった。これからも私は夕飯を作り続けようと思う。母の笑顔がみたいから。何より母を唯一助けられる自分の武器として。料理を作ることはいつか誰かを救うことにつながる。私はそう思っている。

ダイバーシティ推進実行委員会おかやま主催

「仕事や家庭で頑張っている親へ今だから言えるありがとう」子から親へのエール論文コンクール 2023 募集要項

1. 募集内容

テーマ「仕事や家庭で頑張っている親へ今だから言えるありがとう」

仕事や家庭で頑張っている親に対して、泣いたり、笑ったりしたエピソードや親へのエールとなるメッセージを添えて、働き方の多様性など社会におけるダイバーシティの在り方を主に家庭の視点から考える論文を募集します。なお、作品はフィクションではなく、実体験に基づく未公表のものに限ります。作品中に他人が著作権等をもつ著作物等が含まれる場合には、応募者の責任において、その著作物等について著作権者等から応募のための複製の許可を得てください。また、人の肖像等を利用する場合についても同様とします。

2. 募集期間 2023年6月18日(日)～11月19日(日)(募集期間最終日の消印有効)

3. 応募資格 県内外の高校生・大学生(専修学校・各種学校生を含む)

4. 募集作品の規格等

書式自由、文字数 1,600 字程度とし、冒頭に題名(作品タイトル)と氏名を明記してください。

5. 応募方法

郵送の場合は応募用紙とあわせて下記応募先の宛先へ、電子メールの場合は応募用紙の項目を記載し、下記応募先の電子メールアドレスへお送りください。学校で取りまとめて応募することも可能です。なお、作品中に他人が著作権をもつ著作物等が含まれる場合には、許諾を得た著作物等とその著作権者等の連絡先のリストも添付してください。

6. 応募先

- ・ 郵送 700-0022 岡山県岡山市北区岩田町 2-12F-ADIビル 3階北 株式会社ロゴデザイン内
「親へのエール論文審査実施事務局」宛 (応募の際は「子から親へのエール論文在中」と朱書きのこと)
- ・ 電子メール diversity@logoo.design
- ・ WEB サイト <https://logoo.design/diversity>

7. 審査方法、各賞授与

岡山県内の大学関係者で組織する審査委員会で、厳正に審査を行います。高校生の部・大学生の部それぞれで入選作品を選出し、その中から「岡山県知事賞」「岡山経済同友会代表幹事賞」「岡山大学長賞」(以下、「3賞」という。)を授与します(表彰と副賞)。また積極的に取り組んでいただいた学校には「ダイバーシティ教育推進学校賞」を授与します。

8. 入選発表

・ 連絡

2023年12月下旬に本人へ入選・入賞の連絡をいたします。なお、入選されなかった方への連絡はいたしません。

・ 表彰式

2024年1月31日に岡山県庁で3賞の表彰式を行います。受賞された方はご出席をお願いします。

・ 作品発表

作品集として冊子を作成し高校や大学、関係者などに配布するとともに、当実行委員会のホームページに掲載いたします。<https://logoo.design/diversity>

9. 応募作品の出版権及び著作権と公開方法

応募作品の出版権及び著作権は、当実行委員会に帰属するものとします。審査結果の発表とその周知のため、3賞受賞作品を氏名、学校名等とともに広く公開、複製、出版などいたします。また、論文審査および本事業を展開するための広報活動において、全ての作品を、氏名、学校名等を削除した上で複製、展示、公開いたします。応募者は、以上の点に同意したものと見なします。

10. その他留意事項

- (1) 応募者の個人情報は、実行委員会が管理し本コンクール実施に関わるやりとりに使用いたします。
- (2) 文章作成や応募の際に発生する諸経費は自己負担願います。
- (3) 応募書類はすべて返却しません。
- (4) 応募作品の不慮の破損や紛失に関しての責任は負いません。

11. 問合せ先

ダイバーシティ推進実行委員会おかやま事務局(株式会社ロゲーデザイン内)

TEL:086-235-6010 FAX:086-899-6926

MAIL: diversity@logoo.design URL: <https://logoo.design/diversity>

祝日を除く 月曜日～金曜日 10:00～17:00